

◆ 新収蔵資料紹介（令和5年度4月）展示解説シート ◆

久留米つつじ、世界へ ～ 近代の品種改良と販路拡大 ～

会期：令和5年4月4日（火）～30日（日）

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

「久留米つつじ関係資料」は、令和2年7月3日から（一財）久留米市みどりの里づくり推進機構より寄託を受けている資料群です。

久留米つつじは、江戸時代後期に久留米藩士坂本元蔵(1785～1854)がキリシマツツジに改良を加え、200種類もの品種を生み出したことに始まります。明治時代以降も品種改良が進み、大正時代には販路拡大によって発展期を迎えました。今回、大正～昭和時代の販売カタログと、輸出向けに作られた昭和11年(1936)のパンフレットを紹介します。

なお、販売カタログの画像は久留米市世界つつじセンターのホームページ「つつじの歴史資料のご紹介」に掲載されています

(URL及びQRコード)。

<https://www.sekai-tsutsuji.center/old-pamphlet/index.html>



● ^{あかしきじろう}赤司喜次郎と^{こうらくえん}赤司廣樂園

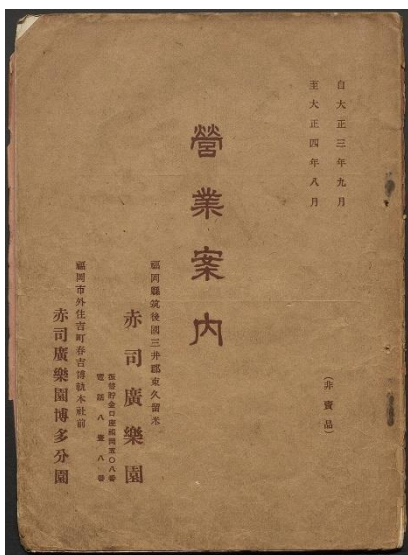
創業者の赤司喜次郎(1842～1920)は、久留米つつじの始祖・坂本元蔵に対し、中興の祖といわれています。喜次郎は、花の人工交配の技術を学ぶと、次々に新しい品種を作り出しました。カタログを作って通信販売を始め、「久留米つつじ」の販路を拡大し、久留米の花き産業の基礎を築きました。

● 主要産物案内
昭和十一年
(1936)
福岡県産業
奨励館



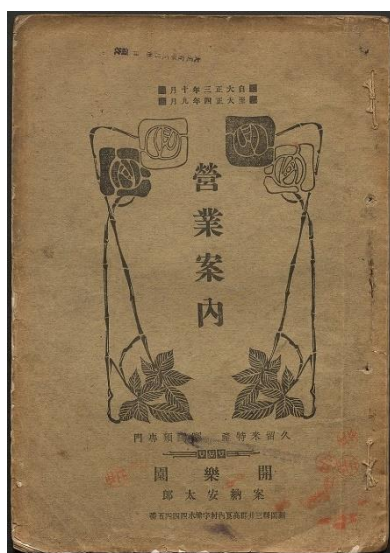
● ^{えいぎょうあんない}営業案内

大正三年(1914) 赤司廣樂園



● ^{えいぎょうあんない}営業案内

大正三年(1914) ^{かいらくえん}開樂園



● ^{かんしょうしょくぶつえいぎょうあんない}観賞植物営業案内

昭和十四年(1939) 桑野養盛園

